



みんなでお歌おう!

## もうすぐそこに春

### 青空にチューリップの花が



小田原にて パート3

1964年(昭和39年)東京オリエンピックの年です。私24歳の夏、新聞広告の文字に目が止まりました。“ポーラ化粧品、高収入約”の募集記事を見て、

品の事など全然知りませんでした。教育があるとの事でしたので、やってみようかなあと、「宜しくお願ひします」とそこに勤めることにしました。簡単に決めてしまいました。が、どうにかなるだろうという気持ちでした。

て、明日から出勤すること。翌日出勤し、机上の勉強が始まり。まず商品知識から、コールドクリーム、化粧水、乳液、ナイロン、口紅等一通りの説明があり、価格、特徴などを教わり。それが高いのか、安いのか私にはよくわかりませんでした。が、化粧水900円、ワンランク上の化粧水が3,000円、これは後に飛び込んでわかりました。資生堂の化粧水が400円でポーラが900円と、とても高いものでした。私は安いのを売るより高いのを売ったほうが歩合の収入は高くなるので、その方がいいかとのんきに考えていました。

から飛び込みに行くって、「はい！行ってきます」。でもどこに行けばいいの？まずは自宅近くの家に飛びこんでみよう、近くの家から飛び込みを開始。一軒目はドキドキもので、「ごめんください！」と元気よく飛び込みました。当時は今と違って、在宅率は高く、結婚している女性は殆ど専業主婦をする習わし。時代のしたので、飛び込む家の80%は誰か在宅してましたので、会うことは出来ました。

私は家から車で15分ほどのところに富士フイルムの工場があり、その社員団地があるのを思い出し、そこに飛びこみをすることにしました。1日目あるお宅で、「そうね、化粧水ある？」と言われびっくりして「有りませ、有難うございます」とまだ売っていないのに、お礼を言っている自分が可笑しくて笑えてきました。初めて販売出来ると嬉しくなり、「はい900円です」と御用聞きのように言っていました。

営業などしたことがありませんが、接客業で人と話をするのはなれていましたので、何にしても、高収入の文字に惹かれたのかもしれない。一度話を聞きたいと、ポーラ化粧品の営業所を訪ねました。

給与は完全歩合制で、販売価格の3割が営業マンの取り分で、販売先は各家庭の飛び込み営業でした。やるなら早いほうがいいと思ひ、「明日から出社します」と言つてその日は帰り、洋子に「ポーラ化粧品の営業をするよ」というと、洋子は「大丈夫？化粧品のことなど何も知らない貴方ができるの」と少し不安そうに言いました。

「大丈夫、何でもやってみなければ先に進めないからね」と私は自分自身にも言い聞かせるように言つ

「結構です」と話を聞きもしない内に断られて追ひ返されました。そんな日が5日ほど過ぎて、一向に売れませんでした。「結構です」「資生堂を使っているから」「今間に合っています」何が間に合っているのか？腹が立ってききました。

その方はポーラ化粧品を前任地で購入して、ポーラ化粧品のお客様でした。たまたま探していたところ、私が飛びこんだので、これ幸いと買って頂けたということでした。

45歳と言っていました。皆さん年上で、所長はが、優しそうな人で私を一度挑戦してみても？と言つて頂きました。私も化粧

「大丈夫、何でもやってみなければ先に進めないからね」と私は自分自身にも言い聞かせるように言つ

2日間の教育も終わり、営業所よりカバンと一通りの商品と商品カタログや商品見本をカバンに詰めてもらつて、「では今日

「結構です」と話を聞きもしない内に断られて追ひ返されました。そんな日が5日ほど過ぎて、一向に売れませんでした。「結構です」「資生堂を使っているから」「今間に合っています」何が間に合っているのか？腹が立ってききました。

まあ、何でも売れば良いと思ひその日は帰りましたが、5日で900円しか売れないと私の収入は

270円、一ヶ月にすると約1,620円にしかなりません。当時サラリーマンの月収が3万円程でしたので、これでは食べていけない。幸い大家さんが農家の人で洋子をかわいがついていたので、野菜やお米など頂いていたのですが、それでもそんな収入では……。

私はふと考えました。よく売る営業マンの人は、お客様にお手入れのサービスをしていると聞かされていきましたので、営業所に美容部員がいることを思い出して、その人を使えないかと考え、所長に談判しました。要するに私は若い男ですし、お客様のお手入れなど出来ませんから、代わりに美容部員さんにしてもらうというこ

とです。私は「美容相談教室」、家庭で人を集めてお手入れ会を開き、そこから販売に結びつけようと所長に相談しました。所長は「それは良い考えだ、私もお手入れをしよう」と言ってくれました。

それから私の営業スタイルは化粧品を売るのではなく、「美容教室開催」“きれいになる方法教

えます”と飛び込んで行くことに徹しました。さてその結果は次回で……

籠谷弘

「会員 趣味のホームページ」

より その6

「ひまわり畑」

「ひまわり俳句」 山口佳寿子

冬日和木々見上げては落ち葉は

毛糸あむ日ざしにつられ動くネ

「ひまわり短歌」 光木和子

たんぽぽも雀も小川のせせらぎ

も 輝きおりし元日の朝

鬼遊びでよく泣かされたガキ大  
将 思い出飛び出しふと胸くすぐ

「ひまわり俳句II」 菅沼清子

元旦を一人迎えて 何祈らん

年賀状浄土の君へ いくまいか

「白ばら園」 奥村文代

私ひとりのコンサート

部屋に時計が 2つある

柱時計と 目覚まし時計

カチ・カチ・コチ・コチ

カチ・カチ・コチ・コチ

大きく 小さく 繰り返し

体を左右に 振りながら

リズムをとって 揺れるる私

うっとり うっとり 夢心地

テレビを消した 一瞬の

私ひとりの コンサート

物忘れ 私もあるよ ある友

ね

書きとめた 手帳がいつも

かくれんぼ

「チューリップ畑」 宮川敬子

明智荘(あけちのしよう) 時

過ぎてなお 息づく地

コロナ禍の 夜鍋べに編むは

手袋や

「コスモス短歌」 石田禎子

日差し受けさざんかの赤あざやかに 新たな年を共に祝いて

竹灯籠祈りし光に願ひ込め 亡

き人忍び26年

冷え込みて布団の温もり有り難

く 風の音にも子らを思いし

「あじさい川柳」 藤本花枝

びっくりよレンジにアイスしま

つてるの

此処にこうしてあるも寒翁が馬

たどりついた此処 もう何処へも

行かぬ

歌声喫茶 4月の予定

「西院」(第2、4木曜日)

4月 8日、22日

「洛西」(第1、3木曜日)

4月 1日、15日

楽々亭9回 3月の予定

3月13日(土)

西京区役所洛西支所会議室

午後1時30分～3時30分

ともしび通信

発行元：NPO 法人没イチの会・京都

住所：京都市西京区大原野東境谷町1丁目1番地4-701

TEL：075-874-5320 FAX：075-874-5328

MAIL：kago@botuichi.com

●ともしび通信では、皆様の投稿を募集しております。身の回りの出来事や体験談など、何でも結構です。楽しかったこと、つらい思いをしたことなど、様々な胸の内を皆様と共有して行きたいと考えております。